

川・海・水の音・水を感じる風景に癒される

人の身体のほとんどは水分だというけれど、草花も水を得て生き活きとする様子にも触れると、生命を感じるからでしょうか？ やすらぐ、清められる、落ち着くなどの気持ちに気づきます。

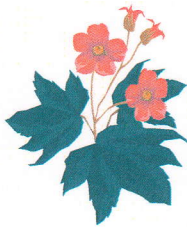
法隆寺は新月の日に切った木を使っているという話を聞いて感動していたら、このあたりの竹林でも竹を切る日というのがあるそうです。すべての命は水に通じている？

川や海が身近な私たちは幸せですね。水族館で癒されるのも、こういうことなのではないでしょうか。

国立がん研究センター

「患者・家族市民パネル」参加報告から

このたび、がんサロンおおだのスタッフ・青木さんが「患者・家族市民パネル」の委嘱を受けました。会議に参加して、参加者の前向きな姿勢に励まされて、一層元気になったとご報告。



通称「がん対策応援団」のメンバーは全国からの約100名で、患者・家族の意見を取り入れた、よりわかりやすく身近ながん情報を発信することを目的としています。

今回は、そこで発表された書籍をご紹介します。

■□■ いい本みいつけた ■□■◇■□

「わたしもがんでした。」

がんとともに生きるための処方箋



国立がん研究センター
がん対策情報センター編
日経BP社

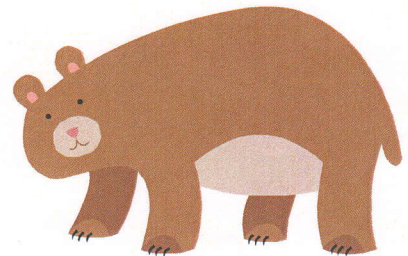
がんとともに社会で暮らすことはできるけど、一体どういうことなのか。体験者とがんに関わる人たちが語っています。慢性病と思って暮らすことや支えとなる患者力という

ことにも触れています。

「熊のような手で治してくれた先生」

～ドクターにもドラマあり

「中学生の時、盲腸から腹膜炎へと死にそうだったのに、熊のように大きな先生の手がお腹に触れて治してくれた。」



そんな経験から医者を目指したというのは、島根大学医学部附属病院・腎臓内科の伊藤先生。

時には笑顔ひとつで治してしまう(?)癒しの環境研究会の笑い療法士です。毎月、病院で「げらげら公楽部(くらぶ)」を開催しています。

お知らせ

来月の「がんサロンおおだ」

7月5日(土) 10時～

会場 ゆきみーる

毎月第1土曜日に開催 お茶代 200円

〈お問い合わせ〉

090-9466-0618 (三宅)

★ ☆ ★

一日三回笑って 一日三回感動で合格!